

たどく  
多読レベル3

ふじや旅館りよかんのご主人しゅじんはあることから  
東海道とうかいどう一のりっぱな人になりました。  
旅館りよかんはいつもお客きやくさんがたくさん来  
るようになりました。  
何がなにあったのでしょうか？



かた  
語り継ぎ 1

もくてき しょうじき い  
目的：正直しょうじきに生きる。

# 「正直五兵衛」

しょうじきざへえ

『湖西風土記文庫 語り継ぐ』より

指導者の皆さんへ

 ジャボラNPO リライト本の目的

- ①多読による、学習者の自己学習の推進。
- ②外国人が理解しにくい日本人の心情や考え方、日本文化を学んでもらう。

 『多読表』を書こう

これは、学習者の振り返り記録です。(ポートフォリオ)別紙

- ①何冊読んだのか(多読)記録します。
- ②おもしろさを三段階で評価します。( 😊 😐 😞 )
- ③感想のひとこと書きができます。

多読表

【○ぜんぶよんだ △ぜんぶよまなかった】

【😊おもしろかった 😐まあまあ 😞あまりおもしろくなかった】

レベル	Vol	タイトル	読書 読書	○△	感想	😊 😐 😞
ジャボラ	0	「いれて」				
	0	「おすれもの」				
	1	笠地蔵 <small>(かさじぞう)</small>				
	1	舌切り雀 <small>(しづきりすずめ)</small>				
オリジナル	2	明日は遠足 <small>(あしたはえんそく)</small>				
	2	お母さんへンシン ～わたしは、時間を守るわよ!				
	2	桶むらの火 <small>(か)</small>				
	2	正徳五兵衛 <small>(しょうとくごべいゑう)</small>				

これは、今から約400年前の江戸（徳川）時代（一六〇三〜一八六八年）のお話です。

東京から、京都までの道を東海道と言いました。

東海道には、53の宿場がありました。

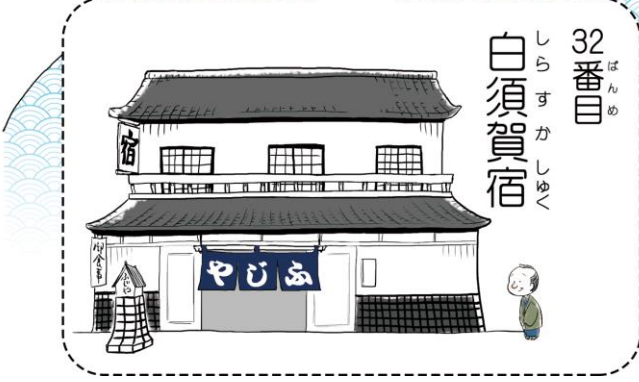
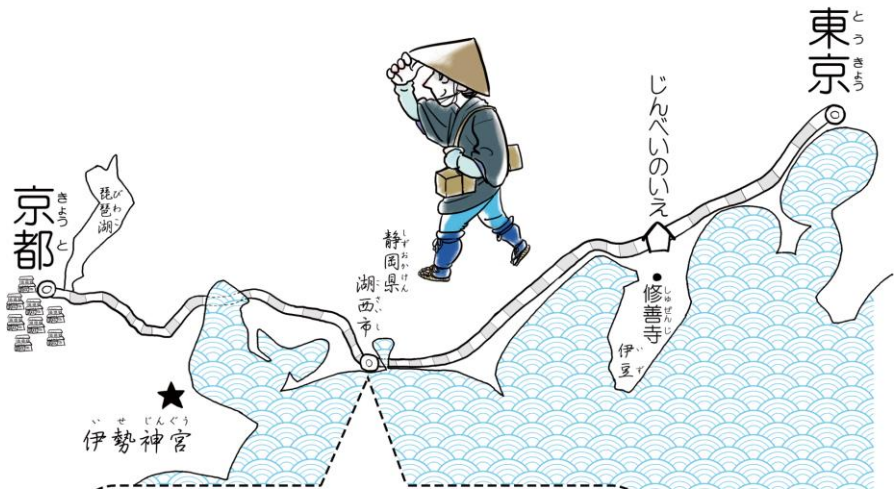
宿場は、旅館がたくさんあるところでは、

旅館は、旅をする人が泊まる場所です。

昔は、飛行機も電車も車もありませんでした。

人々は、歩いて旅をしていました。

とう かい どう  
東 海 道



しずおかけん　こさいし　しらすか  
静岡県の湖西市の白須賀に「ふじや旅館」がありました。

にし　ひがし　たびびと  
西や東からの旅人ですごくにぎやかでした。

しらす　かしゆく　とうきょう　かぞ　ばんめ　しゆくば  
『白須賀宿』は、東京から数えて32番目の宿場でした。

りよかん　しゆくじん　なまえ　ごへえ  
ふじや旅館の主人の名前は、五兵衛です。

ひ　じんべえ　とま  
ある日のことでした。甚兵衛さんが泊まりました。

じんべえ　いず　しゆせんじむら　す  
甚兵衛さんは、伊豆の修善寺村に住んでいました。

伊勢神宮いせじんぐうに行く途中い とちゆうにこの旅館りよかんに泊とまりました。

白須賀しらすかから伊勢いせまでは、あと約やく200キロあります。

伊勢神宮いせじんぐうは、日本にほんの有名な神様ゆうめい かみさまがいます。

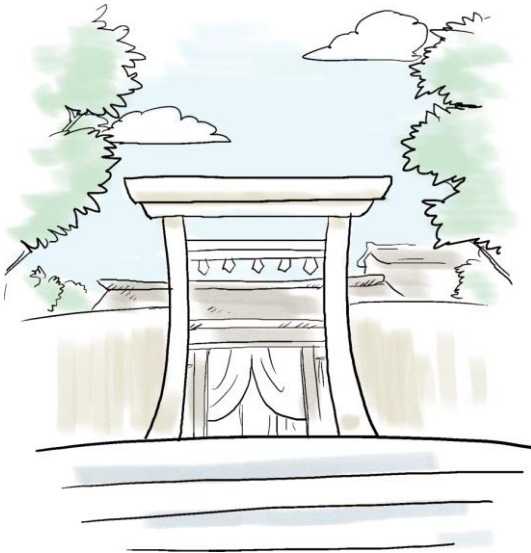
みんなが一生いっしょうに一度いちど行きたいと思おもう場所ばしょです。

そこに行くいには、たくさんのお金かねと

日ひにちがかります。

そのためいっしょうけんめいに、みんなは一生懸命いっしょうけんめい働はたらいて

たくさんのお金かねを貯ためました。



伊勢神宮いせじんぐう

甚兵衛じんべえさんは、次つぎの朝あさ、急いそいで伊勢神宮いせじんぐうへ向むかって出でていきました。

その後ご、お手伝いてつだいのつるが、部屋へやを掃除そうじしていると、布団ふとんの下したから重おもいお金入れかねいがででてきました。

「あつ、お客さまきやくが忘わすれた。」

つるは、びっくりして、急いそいで

五兵衛ごへえのところ

持もっていきました。





「何、お客様が忘れた？」

「はい、あの甚兵衛さんの部屋から」

「つる、正直に言ってくれてありがとう。」

「こりやたいへんだ。たくさん、お金がはいっているな。」

「きつとお客さんはこまっているだろう。」

「よし、おれが持って行こう。」

「でも、もう2時間もたっていますよ。」

「なあに、走ればすぐ追いつく。急いで追いかけよう。」

「五兵衛はお金入れをもって、駆け出しました。」



そして20キロ走って、やっと甚兵衛さんの

後姿が見えました。

五兵衛は、はあはあ言いながら

「お客様 お客様」

と声をかけました。



甚兵衛 「え 私？ふじや旅館のご主人、そんなに急いで何か用ですか？」

五兵衛 「何かじゃありません。これを忘れていましたよ。」

甚兵衛 「えっ それは私のお金入れです。」

五兵衛 「忘れたので、届けに来ました。」

甚兵衛 「まあまあ、ありがとうございます。」

このお金がなかったら、この先、宿のお金も払えません。食べ物を買ったこともできません。伊勢神宮まで行くこともできませんでした。」

五兵衛 「さあ どうぞ 受け取ってください。」

甚兵衛 「こんなに遠くまで届けてくれて、本当にありがとうございます。」

甚兵衛は、うれしくて涙がこぼれてとまりませんでした。

甚兵衛「では、お礼にこのお金を受け取ってください。」

そういってお金入れの中から、小判を出しました。

ところが、五兵衛は大きく手を振って

「いえ いえ お金はいりません。」

これはみんなあなたのものです。

お礼れいをもらうくらいなら、

持もっては来きません。

どうぞ全ぜん部ぶ受うけ取とって下さい。」

と受うけ取とりませんでした。

それで、甚じん兵べ衛えさんは

ごへえわか五兵衛ごへえに別わかれをいいい、

そのまたま旅つづを続つづけました。



そして、一か月後、甚兵衛さんは

伊勢神宮からの帰りにまた、ふじ

や旅館に泊まりました。

そして、もう一度お礼にお金を出

しましたが、五兵衛は受け取りま

せんでした。



甚兵衛じんべえさんは、正直しょうじきな五兵衛ごへえに感心かんしんして、伊豆いずの家に帰かえってからも、多くおほの人にひと

「白須賀しらすかには正直しょうじきな人がひといる。」

と話はなしました。

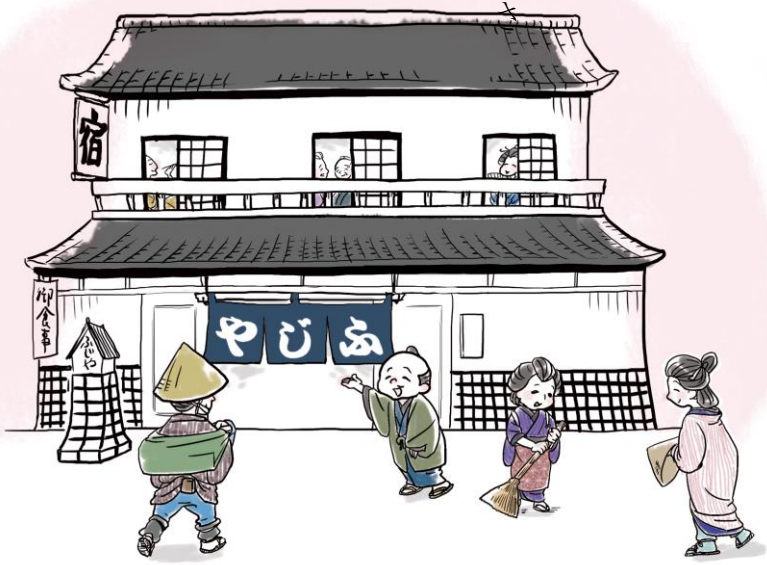
それを聞きいた人ひとが、また他ほかの人ひとにも知しらせました。

そうしたことことから、このことことは多くおほの人ひとに知しられました。

それが、徳川幕府とくがわばくふの人ひとの耳みみに入はいって幕府ばくふから褒ほめめられました。



ごへい とうかいどう  
五兵衛は、東海道にあるたくさんの旅館の  
なかで、一番りっぱな人になりました。  
そして、ふじや旅館には、たくさんのお客  
んが来ました。



【レベルについて ～大人編～】

- ◆本書は、NPO多言語多読監修「にほんご多読ボックス」(大修館書店)のレベルに基づいて作成されています。
- ◆学習者がレベルに応じて、楽にたくさん読めるように、語彙や文法を制限してあります。
- ◆下の表が、「にほんご多読ボックス」のレベルの詳細です。

レベル	語彙	字数/1話	主な文法項目
0 入門	350	～400	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
1 初級前半	350	400 ～1500	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
2 初級後半	500	1500 ～3000	辞書形、て形、ない形、た形、連体修飾、～と(条件)、～から(理由)、～なる、～のだ など
3 初中級	800	2500 ～6000	可能形、命令形、受身形、意向形、～とき、～たら・ば・なら、～そう(状態)、～よう(推量・比喩)、複合動詞 など
4 中級	1300	5000 ～15000	使役形、使役受身形、～そう(伝聞)、～らしい、～はず、～もの、～ようにする／なる、ことにする／なる など
5 中上級	2000	8000 ～25000	機能語・複合語・慣用表現・敬語など 例) ～につれて、～わけにはいかない、切り開く／召し上がる、伺う

◎NPO多言語多読については、ホームページをご覧ください。

<http://tadoku.org/> (「NPO多言語多読」でも検索できます。)

この作品は、平成28年度文化庁委託事業によりNPO法人日本語教育ボランティア協会が作成しました。著作権は文化庁にあります。

提供元URL：[http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/seikatsusha/](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha/)

挿絵：黒瀬 多喜代

簡約・監修：ジャボラ NPO

